



なが さわ のり やす
長澤憲保

授業実践リーダーコース教授

今春から小学校教員になります。
実習校では教室ごとに
机の並べ方が違っていました。
どのようなねらいがあって
並べ方を変えるのでしょうか。

小 学校教員は「授業に落ち着いて集中させたい」「仲間の考えをよく聞き合うようにさせたい」「より活発な発表や討議をさせたい」など、さまざまな意図に基づいて机の並べ方に工夫を凝らしています。一般の教室では学習活動をより円滑に効果的に展開させるため、授業途中であっても机の配置を機動的に変える事例は少なくありません。

机の並べ方には主に次の三つが挙げられます。①正面の黒板に向かって2人ずつ並んで列をつくる：オーソドックスな並べ方です。一人一人が落ち着いて教員の発言をしっかり聞く、教員との応答関係を重視しています。②4、5人が向かい合って島をつくる

：仲間と共に考えることで一人一人の学習活動への参加意欲を促し、意見発表を活発化させることにつながります。③全ての児童が教室の中央に向くようコの字形に並べる：互いの顔が見えやすくなることで発表を聞き合い、学級全体で討議ができるようになります。学習の目標や内容、状況などに応じて机の並べ方を変え



キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

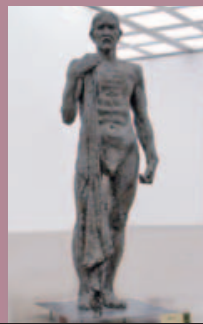
森山潤教授が
日本産業技術教育学会の
学会論文賞を受賞



昨年8月、森山潤教授(行動開発系教育コース/授業実践リーダーコース)が日本産業技術教育学会の学会論文賞を受けた。この賞は同学会誌に掲載された論文のうち、特に優れた研究に与えられるもの。森山教授の論文「技術科教育における生徒のつまずきに対する意識」は、生徒が技術科の授業でつまずきを経験した後、克服に向けた主体的な問題解決が生起する内的条件を検討した点、そのための学習指導のポイントを考察した点が高く評価された。

前芝武史准教授が
日展第3科(彫刻)で
特選を受賞

第43回(平成23年度)日展の第3科(彫刻)で、前芝武史准教授(文化表現系教育コース<美術>/小学校教員養成特別コース)が特選を受賞した。受賞作「道標の男」は、堅実なデッサン力と荒々しいタッチのモデリングに裏打ちされた人間の複雑な感情表現が高く評価された。前芝准教授はマッス(塊)の構築を基礎とした具象作品の制作を軸に、彫刻分野の造形論研究や彫塑領域の教育論研究に取り組んでいる。



附属小・杉田紗彩さんが
国土交通省「河川愛護月間」
“絵手紙”で優良賞



国土交通省が募集した平成23年度「河川愛護月間」“絵手紙”で、附属小学校2年生の杉田紗彩さんが優良賞(水管理・国土保全局長賞)を受賞した。募集内容は「川遊び～川での思い出・川への思い～」をテーマに、1枚のはがきに絵を描き、文章を組み合わせたもの。全国から寄せられた2,045点の中から20作品が入賞。そのうち、小学生低学年の部(1～3年)の入賞は杉田さんの作品を含めて4点だった。